

科目マスタ修正および仕訳の修正

合計残高試算表などの帳票では、複数の科目を集計して 1 つの項目として出力します。対象の科目が意図しない範囲に表示されている場合、適切な範囲の科目に変更する必要があります。

科目マスタの修正を行い、仕訳も修正します。

■ 集計範囲の確認

「勘定科目一覧表 帳表集計範囲表」を確認します。

例)

- ・業種：法人
- ・科目コード：(内部) 8910 (外部) 920
- ・合計残高試算表/損益計算書 (法人)
現) 営業外費用に計上されている → 新) 特別損失に計上したい
- ・特別損失の科目コード範囲：9210-9270
→ 「内部コード：9230 予備」に変更することにします。

■ 科目マスタの修正

1. マスタ>201 科目マスタ>4 会計データの科目登録>会計データ選択で、科目マスタを開きます。
2. 「内部コード：8910」の外部コードを内部コードと同じにし、略科目名・正式名称も必要に応じて修正します。
※外部コードが同じ場合は、略科目名・正式名称のみ変更します。

■修正前

番号	内部	外部	略科目名	正式名称 (1 2)
508	8890	8890	予備	
509	8910	920	関株売損	関係会社株式売却損
510	8990	846	雑損失	雑損失

■修正後

番号	内部	外部	略科目名	正式名称 (1 2)
508	8890	8890	予備	
509	8910	8910	予備	
510	8990	846	雑損失	雑損失

補足

入力済みの仕訳への影響

仕訳データ入力時は、外部コードで入力しますが、システム上は内部コードで管理されています。よって、上記の修正を行った場合、「外部コード 920」で入力していた仕訳の科目コードは、「8910」に自動的に修正されます。

3. 「内部コード：9230」の外部コードと略科目名・正式名称を修正します。
※外部コードを変更する必要がない場合は、略科目名・正式名称のみ変更します。

■修正前

番号	内部	外部	略科目名	正式名称（12）
520	9220	9220	有価評価	有価証券評価損
521	9230	9230	予備	
522	9240	9240	予備	

■修正後

番号	内部	外部	略科目名	正式名称（12）
520	9220	9220	有価評価	有価証券評価損
521	9230	920	関株売損	関係会社株式売却損
522	9240	9240	予備	

注意 貸借対照表の範囲修正に伴う期首残高の修正

貸借対照表の範囲修正を行う場合、必要に応じて、期首残高の修正を行います。
データ入力＞103 科目残高入力＞会計データ選択＞1 当期残高データ入力で、
残高を移行してください。

■ 仕訳の修正

- データ入力＞101 仕訳データ入力＞会計データ選択＞年間入力で、
仕訳データ入力画面を開きます。
- [検索・置換]＞[仕訳データ置換]を選択します。
- 条件を設定し、[置換開始]、あるいは[すべて置換]のいずれかを押します。
※ [すべて置換]を押すと、確認メッセージを表示せずに、一括置換します。
借方・貸方 1 回ずつ行いますが、いずれかにしか入力していないことが
明確な場合は、入力した側のみ行います。

■借方を置換する場合

検索する仕訳データ:	伝番	部門	工番	月	日	借方コード	貸方コード	金額(電卓Insert)
置換後の仕訳データ:						8910 予備		
						920 関株売損		

■貸方を置換する場合

検索する仕訳データ:	伝番	部門	工番	月	日	借方コード	貸方コード	金額(電卓Insert)
置換後の仕訳データ:							8910 予備	
							920 関株売損	

■ 修正後の確認

合計残高試算表などで、確認してください。